

令和8年第3回公安委員会会議録

日時	2月5日(木曜日)	自午後 1時30分 至午後 3時30分	場所	公安委員会室
会議出席者	公安委員	甲斐委員長 野口委員 小野委員 宮尾委員 吉田委員		
	警察職員	警察本部長 警務部長 生活安全部長 刑事部長 交通部長 情報通信部長 警備部参事官		

第1 定例会議

1 令和8年度警察費当初予算(案)の概要について

警察本部から、熊本県議会令和8年2月定例会に上程予定の次年度当初予算案について報告が行われた。

公安委員から「非常に県の予算が厳しい中、約13億円の増額とのことで、折衝等を頑張ってもらったと思う。」旨の発言があり、警察本部から「厳格なシーリングが設定された中での予算要求であったが、計画的に取り組んだ結果、従前を上回る規模の予算を容認してもらうことができた。予算が成立した暁には各事業の効果を発揮できるよう進めたい。」旨の説明があった。

2 初任科第316期長期課程生の卒業について

警察本部から、令和8年1月30日に警察学校を卒業した初任科長期課程生の教養結果等について報告が行われた。

公安委員から「女性職員が増加し、今回の卒業生も3分の1が女性であるところ、女性寮が手狭で部屋が不足しがちとの話を他県の公安委員からも聞く。予算も厳しいと思うが、現状はどうか。」旨の発言があり、警察本部から「女性寮の整備は当県でも喫緊の課題であるが、国が国費で整備する施設であることから、引き続き国への働きかけ等の検討を進めていきたい。」旨の説明があった。

また、公安委員から「初任科生は、教養期間の途中で、一度、警察学校から警察署に配属になるが、警察署と警察学校の連携は取れているのか。1年9か月の期間中、継続して人物を見ていく教育が大事であると思う。」旨の発言があり、警察本部から「警察署における研修状況等について、警察署から警察学校に所要のフィードバックをしてもらい、警察学校でまとめている。」旨の説明があった。

このほか、公安委員から「経験させ、実践させるということが一番の訓練であるから、このようなカリキュラムになっていると思う。」「学びながら給料をもらえる立場であるということも自覚を持ってもらいたい。」「初任科生の教養期間が1年9か月もあるのは、かなりのレベルのノウハウと教える能力とがあるということで、素晴らしい。これは、警察の仕事が、それくらい入念に教養していかないと国民・県民に受け入れられるものにならないということの裏返しでもあるので、この教養を大事にしていきたい。また、この入念な教養は、採用のPRにもなるかもしれない。」旨の発言があり、警察本部から「委員意見を受け、県警察が一人前の警察官を育成するために多くの労力とコストをかけていることを再認識できた。能力、倫理感のある職員をしっかりと育てていきたい。」旨の説明があった。

第2 報告・決裁等

- 1 人事異動についての決裁(警務課)
- 2 苦情(R7. No.26)の調査結果についての決裁(刑事企画課)
- 3 苦情(R7. No.27)の調査結果についての決裁(交通指導課)
- 4 苦情申出(R8. No.2)の受理についての決裁(公安委員会事務室)